

令和5年度 学校評価【最終】

学校名（廿日市市立大野西小学校）

評価計画					自己評価					学校関係者評価 コメント	改善方策
中期経営目標 (めざす児童生徒像)	短期経営目標 (めざす児童生徒像)	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標	中間 8月	最終 2月	達成	評価	結果と課題の分析		
小中一貫教育を通じて「言語を使いこなす力」「多様性を認め協働する力」「自律的に活動する力」を育成する。	基礎・基本の定着  ◎学ぶ楽しさを実感させる授業づくり	・国語、算数の強化  ・家庭学習の充実	6年生：全国学力・学習状況調査の県平均との差、 全学年：標準学力調査の全国平均との差	+3pt 以上—A, +3pt 以内—B, -3pt 以内—C, -3pt 以上—D	国語： -5pt 算数： -4pt	国語： 1. 2. 4+3pt 3. 5. 6-3pt 算数： 1. 2. 4+2pt 3. 5. 6-4pt	-	D	・主に算数科が「横ばい」、又は下回っている。特に「図形領域」に課題があった。 ・無回答率は低下していた。	・ICT や具体物を活用して、視覚的、感覚的に図形を学ぶ学習活動を設定。 ・帯学習などにおいて、基礎基本を充実させ、課題に取り組む力を育てる。	
			児童アンケートで「家で自分で計画を立てて勉強しています」の肯定的評価の割合	85%以上	84%	85.3%	100%	A	・学校全体の平均では目標値を達成している。 ・4年生以上から平均値が下がっている。	・数値だけで見てはわからないのかもしれないが、学力の低下が心配。本来身に付けないといけない力がついているのか。 ・2年生の九九支援に来ていた。ほとんどの子が九九をマスターしたのは嬉しい。しかし、九九より10までの数(基礎)と思う。一番基礎のところをきちっとやっておかないと落ちこぼれたり、算数を嫌いになったりしてしまう。逆に、数字が強くなれば算数が好きになるはず。	・低学年での宿題をやり切る力、高学年では、自主学習の内容例を紹介するなどサポートや振り返りを通して基礎学力の定着を図る。
		・話す(表現する)場の設定	児童アンケートで「授業では、となりの人やグループ、全体の場で自分の考えを理由をつけて話したり書いたりしています。」の肯定的評価の割合	85%以上	84.2%	86.6%	101%	A	・学校全体の平均値が目標値を達成している。 ・対面で話し合う場も設定することができた。	・表現する場の設定を継続して行う。言葉や記述だけでなくICT等も活用できるような、児童の選択肢を増やしていく。	
	育成すべき資質・能力を意識した教育活動の推進	・課題発見解決学習の実践  ・ユニット研修や小中合同の研修会の実施	児童アンケートで「課題の解決に向けて、自分で考え、自分で取り組む」の肯定的評価の割合	90%以上	88%	92.1%	102%	A	・学校全体の平均が目標値を上回っており、各学年でも同等程度の数値であった。	・考えるための基盤として、帯学習などを通して基礎基本の充実を継続する。 ・自分で取り組むために、思考を整理するためのツールを活用できるようにする。	
	児童の主体的な活動の充実  ◎つなプロの日常化	・児童会、委員会活動、異学年交流活動の充実	児童アンケートで「教育活動に主体的に(自分から)取り組んだ」の「よくあてはまる」の割合	90%以上	89%	92.4%	102%	A	・異学年交流は仕組みなかったが、委員会活動では全校朝会で発表するなど活躍の場を仕組むことができた。	・不登校の人数には、廿日市市の支援(子ども相談室)等に行っている児童の数も入っているのか。 ・地域から依頼されて物づくりをすると感謝してもらえる。そうすると、もっと学んでみたい、と思う。ほめてもらえるともっとやる気になる。その機会を増やすことで生徒の成長が見られる。小・中・高・地域がつながる場が大野学園になっていけるといい。	・ペア学年で交流できる機会を増やすなど、異学年交流の機会を意図的に仕組んでいく。
			・学級活動の充実	児童アンケートで自己有用感・所属感を示すアンケートの肯定的評価の割合  児童アンケート(高学年)で「自分は学校・学年・学級集団(チーム)の間に協力し、貢献していると思います。」の肯定的評価の割合	80%以上  80%以上	77.3% ①50.8% ②50.2% ③50.1% ④50%	83.1% ①49.5% ②45.6% ③49.4% ④48.9%	103%  110%	A	・2学期から、学年ごとに「見える化」を意識したつなプロの取組を行い、肯定的な声かけを心がけることができた。 ・様々な行事への取組や係活動などを活性化させることができた。	・所属感アンケートにある具体的な内容を教職員全員で意識統一し、各学年各個人でねらいを明確にして児童に関わっていくようにする。 ・高学年が学校のリーダーとして活躍できる場面を、意図的に仕組んでいく。
			学校以外の機関につないだ割合 新規不登校児童の減少(前年度比)	100%		3学期全欠 1名(相談室にも通室0日)			D	・新規不登校児童は15人で昨年度の2.5倍となり課題である。 ・不登校であったが、好転している児童もいる。	・欠席児童や保護者との連携を組織的に行い、学校とのつながりが切れぬようにする。また、学校以外の選択肢についての情報提供もしていく。
	◎働き方改革の推進	・学校行事、その他の活動を精選する。  ・仕事に見通しを持たせる。	時間外在校等時間の平均	32時間  以下—A, +5%以内—B, +10%以内—C, +10%以上—D	4月40時間 5月43時間 6月44時間 7月25時間 8月7時間 9月32時間  平均31時間	10月35時間 11月34時間 12月28時間 1月29時間 2月29時間  平均31時間	103%	A	・2学期から取り組む内容3点を教職員が意識できており、時間外在校時間の減少につながっている。 ・研修を行い、共通理解を図った。	・自由進度学習は今の程度導入が進んでいるのか。本校の状況は？今後、だんだんとそちらに進んでいくのか。新しい取組が始まると先生達は今までやったことのない取組に挑戦しなくてはならないのが大変だと思う。	・授業も仕事も、見通しややりがいをもって実践していくことができる環境(職場)づくりをしていく。 ・学級事務や教材研究の準備ができるように放課後の時間確保に努める。
	その他		保護者アンケートで「大野西小学校の教育に満足している」の肯定的評価の割合	85%以上	90%	90.6%	107%	A	・肯定的な評価が多く、保護者の協力を得られている。	・学校だよりで児童のよさや頑張りが伝わるようにする。 ・保護者と連携し、協力を得る。	

